



統師、研究ニ就テ

特別
又6
8490
1799
早稲田大学図書館



大正六年一月号歴史雑誌第一 第二稿

五七三頁

統帥ノ研究ニ就テ

陸軍少將 宇垣一成

歐洲戦乱勃發以來烏免匆々茲ニ二年有半此間交戦諸国ハ
 所有ル生命ト国帑トヲ賭シ渾身ノ智能ト勞カトヲ費シ諂
 闘虎搏的ノ大角逐ニヨリ呈出セル幾多珍異ノ新現象ハ大
 ニ世人ヲ驚嘆シ危懼シ眩惑シムルト同時ニ曠々裡中軍
 事界ニ一種嶄新ナル思想ヲ齎シ其ノ歸着スル所ニ惑ハシ
 ムルモノアリ、一説ニ曰ク今後ノ戦闘ハ數次歐洲戰場ノ東
 西ニ於テ實現セラレタルカ如ク歩兵ノ突進ハ之ニ先ツ多時多
 大ナル鉄量ヲ以テスル銃砲彈ノ應酬ニ依リ當路ノ塹壕、
 副防禦ヲ全ク破壊掃蕩シ原野ト化センノタル後ニアラサ

レハ其功驗ナカルヘシ故ニ將來ノ戦争ニ於テ武器彈藥
等物質上ノ諸元充實完備セル国軍ニアラサレハ優勝ノ地
位ヲ占ノ得サルヘシト、他説ニ曰ク敵自報國ノ犠牲心及
猛烈果敢ナル攻撃精神ノ磅礴タル国軍ニアラサレハ
銳利ナル銃砲、饒多ナル彈藥、優勢ナル兵力ヲ以テシテモ
何テウ其ノ成效ヲ期シ得ヘキ現ニ今日綜合トハ調ヘ兵力
ニ於テ優勢ヲ占ノ而モ豊富ナル武器彈藥ヲ整備セル聯合
軍カ孤軍重圍ノ裡ニ在リテ一面各種ノ敵令トモ闘ヒツツアル
同盟軍ヲ今尚壓伏粘碎シ得サルニアラサレ之レ畢竟スル所
此ノ壯烈ナル犠牲心潑刺タル攻撃精神ニ於テ缺クル所
アルニ帰着セシハアラサレ故ニ此等無形上ノ涵養ハ未來ノ戦

(小林又七印)

場ニ於テ勝利ノ榮冠ヲ贏ケ得ルノ要素ナルヘシト、然リ余ハ
此ノ二個ノ思潮ヲ以テ各單ニ真理ノ一面ヲ示スニ過キスシテ其
ノ全豹ニアラス必スヤ兩者併進以テ双美ノ域ニ達シ之ニ加ル
ニ吾人將校ノ統帥ニ関スル研究妙處ヲ極メ得テ茲ニ始
メテ国軍ノ健全ノ度幾シ征戰ノ常勝ヲ保証シ得ヘシト信ス
ル者ナリ、換言スレハ將來學國一致以テ益々国民性格ノ陶冶高
上ニ勉ムルト同時ニ工藝技術ノ進歩途ヲ圖リ以テ国軍成立
ノ基礎ヲ鞏固シ武裝ヲ完整セシメ一方特ニ吾人將校ハ奮
勵研鑽統帥ノ蘊奧ヲ究メ卓越豊富ナル識量ヲ以テ
此ノ優秀ナル国軍ヲ統率シ此ノ完備セル武器ヲ巧ニ應用スルニ至
ランコト切要ナリ

古来ノ戦史ニ徴スルモ武裝整備志気充溢セル国軍モ統率者ノ
識量缺乏ノ為覆没ノ不幸ヲ招キ或ハ勇敢ナル配下士卒ヲシテ
徒ニ鮮血ヲ濺カシメタルカ如キ幾多ノ事例ニ乏シトセス、殊ニ
歐洲諸国ニ比シテ尚甚タシク幼稚ノ域ヲ脱セサル帝國工業
ノ現況並ニ軍需原料ノ大部カ其ノ供給ヲ海外ニ仰カサルヘカサ
ル帝國ノ境遇ニ鑑ミルトキハ彼ノ投擲スル鉄量ノ多寡ヲ以テ輸
贏ヲ争ハントスルカ如キ戦法ハ之ヲ望ムヘクモ得ヘラス恐ラクハ瞬時ニ
シテ其ノ要求ヲ充シ能ハサル悲境ニ沈淪スルニ至ラン乎、又過去
ニ於テ帝王ノ大ニ誇リトシ將又今後切之ニ恃頼セントス国民性
モ獨佛諸国カ補充人員ノ缺乏ニ苦ミマアル現況ニ照セハ異日
吾人ハ永續スル大戦役ニ際シ損傷ノ結果トシテ健全ナル性格

(小井又七印行)

ノ宿ルキ基礎タル人士ノ缺乏ヲ訴フルノ機ニ際會シ遂ニ此ノ
国民性モ利用シ得サルコトキヲ保セス、換言スルハ吾人ノ物質及
国民性ニ依憑スルコトハ超越シ難キ某限度アリト謂フヘキナリ、
之ニ反シテ古人ノ所謂學術ニ限界ナキ、諺ニ漏レスシテ軍隊統帥ノ
術、如キハ吾人ノ研鑽努力ノ如何ニ依リ其ノ進歩高上ニ際涯ナ
シ、茲ニ於テ乎余ハ益々吾人僚友ノ進歩ニ限界ナキ統帥ニ
關スル識量ヲ増進シ以テ彼ノ饒多クテ望ムモ尚ホ十分ヲ求メ得
難キノ境遇ニ於テ軍需材料ノ巧妙ナル利用並ニ救ニ於テ限度アル
人員ノ節約ヲ圖ルコト所要ナリト感スルヤ切ナリ、然ルニ近時吾
人僚友向ニ於テ統帥ニ關スル研究勃モスレハ等閑視セラルニアラ
サルヤヲ疑ハレハルモノアリ、時偶々今次ノ大戦役ニ於ケル幻影ハ

一ニモ軍需ニモ材料トテ物質萬能ニ偏シ或ハ國民性ノ健全
ノ^ニ恃賴セシトスルカ如キ思潮澎湃トテ軍事界ヲ風靡セシトス
ル^ニ概向ニ鑑ミ一層其ノ感ヲ深フス。敢テ不敏ヲ顧ニス先筆
ヲ呵シテ本稿ヲ草シ俸友諸賢ノ是正ヲ乞フヘシトス
加フルニ余ハ吾人ノ此ノ統帥ニ関スル研究カ從來動モスルハ形容ニ流レ
皮相ニ走り不徹底ノ弊ニ陥ルニアラサルヤヲ疑フ者ナリ、須ラテ研
究ハ真面目且徹底的ナラサルヘカラスルコトニ関シ今次ノ戰蹟カ吾人ニ
教訓ヲ與フルモノ少シトセス左ニ余ノ所感ノ一節ヲ紹介シ俸友ニ顧
ヲ煩ハサントス

余嘗テ在獨向東普魯西ダンケヒ市ニ於テ隊附勤務ニ暇シタル
コトナリ、今次ノ戰役ニ於テロツツ及ガリシヤ方面ノ諸會戰セルビヤ

(小林又七印行)

及ル^ニマニア征服ニ於テ驍名噴々タルフォン、マッケンゼン元帥ハ
當時余ノ所屬師團長タリ彼ハ中佐タリシ時聯隊長トシテ同市ニ
来リ爾來衛戍地ヲ同フスルコト十数年此向旅團長ヲ至テ師團
長ニ累進セシモノナリ余一日彼ト會談偶々風土荒漠、氣候峻
烈ナル地陬ノ小都市ニ永年勤績スル勞苦^ヲ察スルニ牽リアリ
的ノ言辭ヲ弄ス彼^レ厚然答フ正シテ曰ク「否々スラーブレツ
ニ居ルコトハ必予カ畢生ノ務メナリ氣候風土何カアラント、
彼ハ余ノ歸朝右軍團長ニ榮進シ尚續テ同市ニヤリシカ今次ノ戰
ハ勃勃ト共ニ二十有五年同地ニ親炙セシ其ノ軍團ヲ統率シテ
出征シ爾右軍進今日ノ要伍ヲ占ムニ至リ、余ハ今ニシテ轉テ彼
片言隻辭ノ意味深遠ナリシヲ首領スルト同時ニ古語ニ所謂

羅馬ハ一朝一夕ニ建設セラレタルモノニアラステフ寓意ニ違ハス今日ニ於
テ仇敵獨乙ノ軍事上ニ於ケル成功ハ百年訓練ノ報酬、数十年
拮据研鑽ノ結果ニ外ナラステ感スルヤ深シム矣、彼ノ在外一兩年ニ
シテ已ニ内地勤務ヲ差次望シ或ハ邊陲備戍在勤兩三年ニシテ他
ニ轉遷ヲ求索スルカ如キ吾人軍人社會ニ於ケル今日ノ状態ヲ以テ
シテ果シテ善ク敵ヲ知リ地理ニ通シ配下ニ親シ以テ統帥ノ妙
術、指揮ノ極致ヲ發揮シ得ルヤ聊カ疑ヒナキ能ハス、余ハ軍
事界ノ趨勢ト帝國ノ現況ニ鑑ミ僚友詰賞ト共ニ益々統
帥ニ固シ智能ノ高上ヲ促進シ而シテ其ノ研鑽ハ一層真面
目且徹底的誠ヲ盡サンコトヲ切望シテ止マサル者ナリ

